



横浜市立
二つ橋小学校

Futatsubashi Elementary School

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/futatsubashi/>

学校だより

11月号

令和5年10月31日

ぬくもりのバトン

校長 青木 和裕

横浜市では、11月を「市民の読書活動推進月間」として位置付けています。本校では、11月6日から11月17日を読書週間として、図書委員会を中心に、読み聞かせやスタンプラリーなど、様々な読書への関心を高める取組を企画しています。私も、毎年朝会で読み聞かせを行っていますが、今年は、「バスが来ましたよ」（由美村 嬉々作 松本 春野絵 アリス館 2022年6月発行）を取り上げました。

この本の主人公の男性は、目の病気で、ものが全く見えなくなってしまいました。1年間、仕事を休んで、白杖を持って歩く練習を重ねました。ある暑い夏の日、一人でバスに乗って、仕事場まで通うことにしました。最初は、バスに乗りそびれてしまったこともありました。そんなある朝、「バスが来ましたよ」。小さなかわいい声とともに、小さな手が腰に添えられました。その日から、そのさきちゃんという女の子が、男性の降りるバス停まで、優しく案内してくれるようになりました。季節は穏やかに流れ、年はめぐり、4月。いつものように「バスが来ましたよ」の声。あれっ、声が違う。その子は、さきちゃんの妹だったのです。それから、この男性を助ける思いやりのバトンが、いろいろな子どもたちにリレーされていきました。10年以上もの間、小さな手のぬくもり、温かい声かけのリレーが、子どもたちの中で受け継がれていったのです。

この絵本は、実話をもとに描かれています。不安だった通勤が楽しい時間になった男性。そっと腰に手を当てて、「バスが来ましたよ」と語りかける子どもたち。誰かに言われたから行うのではなく、自発的に小さな手のぬくもりのバトンをつないでいったのです。

この本を最初に読んだとき、途中から涙がこぼれてきました。二回目に読んだときも、同じように涙がこぼれてきました。今日（10月31日）の朝会、「校長先生の読み聞かせ、どんなお話だった。」お子さんに、聞いてみてください。

二つ橋小の子どもたちの登校する様子を見ていると、1年生の手を優しくつなぎながら歩く6年生、下級生のゆっくり歩くペースに合わせて、後ろから見守りながら歩く上級生と、ぬくもりのバトンが毎年つながっているのが、よく分かります。

これからも、ぬくもりのバトンがつながっていきますように・・・。